



合い言葉は、「自分でチャレンジ」



今年度は、「失敗したらどうしよう」、「うまくできるだろうか」そんな不安や心配な気持ちに負けることなく、いろいろなことにチャレンジできる子どもを目指して、みんなの合い言葉を「自分でチャレンジ」としています。これと同じく学級全体で何かにチャレンジして、みんなが頑張るよさや、うまくいかない時の苦しさ、頑張って達成する喜びを味わわせたいと考えています。
各学級が1学期みんながチャレンジすることを紹介します。

【今年みんなの合い言葉】

1年	1組「帰りの用意 全員4分」	2組「挨拶1日、10回以上」	3組「おすすめの本 全員半分以上達成」
2年	1組「みんなで早口言葉」	2組「みんなで挨拶チャレンジ」	3組「みんなで挨拶チャレンジ」
3年	1組「あいさつ名人」	2組「みんなで、あいさつ名人」	
4年	1組「私の1日、英語でチャレンジ」	2組「わり算の筆算完ぺき」	3組「みんなで読書」
5年	1組「長縄3分間チャレンジ」	2組「みんなで、アート(貼り絵)」	
6年	1組「みんなでリコーダー」	2組「長縄チャレンジ」	

基盤をつくる5つの習慣づくり

子どもたちの成長を支える基盤づくりとして今年度、次の「5つの習慣づくり」に取り組んでいます。

- ◇ 当たり前のできる習慣づくり・・・挨拶、履物並べ、廊下、階段歩行等
- ◇ 学習を支える構えの習慣づくり・・・時間を守る、学習のきまりを守る、提出物を守る等
- ◇ 自主的な意識を高める集団づくり・・・当番の仕事、係の仕事、みんなのために働く等
- ◇ きまりやルールを守る習慣づくり・・・集団登校、黄色い帽子の着用等
- ◇ 感染しない習慣づくり・・・朝の健康チェック、マスクの着用、丁寧な手洗い



【当たり前のできる(揃える)】



【自主的な意識を高める(児童朝会の司会、6年生が1年生に拭き方を教える)】



されど牛乳パック



左の写真は、給食後、開いた牛乳パックを学年のケースの中に入れていたものです(高学年)。最初の頃は、バラバラに入れられ、時には、袋からあふれている時もありましたが随分変わりました。

- この牛乳パックをみると、
- ・子どもたち一人ひとりが丁寧に牛乳パックを開いている。
- ・各学級でみんなの牛乳パックを揃えて並べている。
- ・丁寧に整理しながら袋にいれている。

そんな姿が見えてきます。何気ない牛乳パックですが、子どもたちの心の成長が感じられ、嬉しい気持ちにさせてくれます。

【丁寧に片付けられた、牛乳パック】

【校長のつぶやき】「台所の弁当箱」

私が小学生の頃は、土曜日午前中だけ学校に行っていました。4年生の時、担任の先生が「今度の土曜日は、弁当を持ってくるように」と言われました。土曜日の朝、登校する時間になっても弁当は、出来ていませんでした。「後から学校に持ってくるけん」という母の言葉を聞き、学校へ行きました。昼食の時間になりましたが、弁当は届いていませんでした。担任の先生が「パンを買いに行こうか」と言ってくださいましたが、私は、意地をはって「いいです」と言い、母を待ちました。結局、弁当は届きませんでした。私は、腹を立てて家に帰り、仕事から帰ってきた母に、かなり文句を言ったことを覚えています。文句を言った後、台所の上を見ると届ける予定だった弁当箱が置いてありました。母は、弁当を作った後、届けるつもりだったそうですが、農繁期でとても忙しかついている父が、「行かんでもよか」と言ったことが後から分かりました。家には自動車もない、何より人手が必要だった当時を思えば仕方なかったことだと思います。母にひどい事を言ったことをとても後悔しました。

時々、おうちの方から忘れ物や水筒等を届けてもらうことがあります。子どもたちには、わざわざ届けてもらったことを当たり前と思うのではなく、「届けてくれてありがとう」という感謝の気持ちを伝えてほしいと思っています。